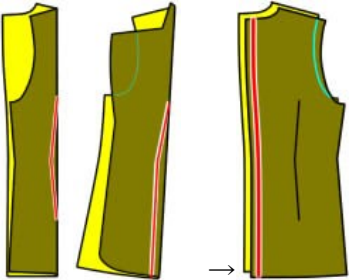

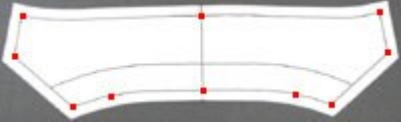
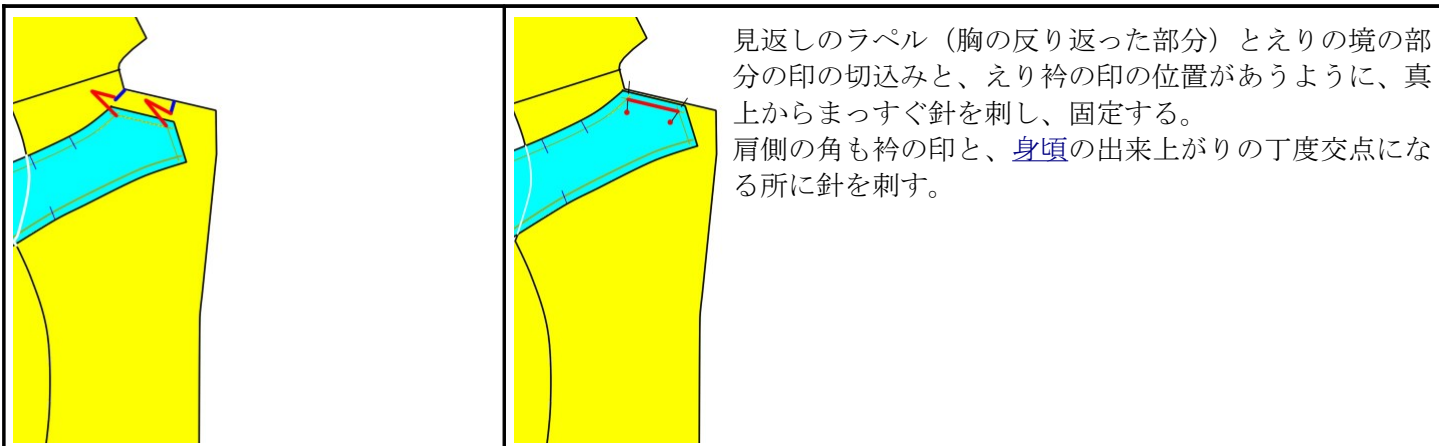
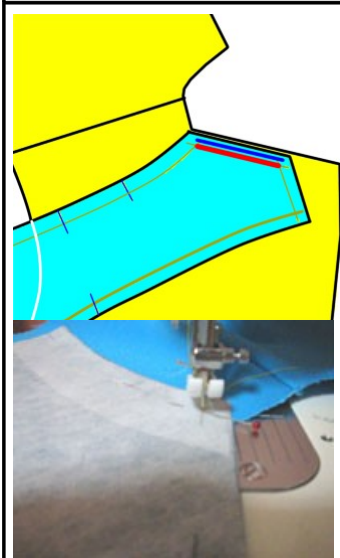


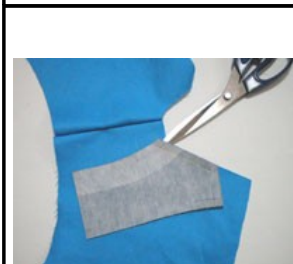
<p>■表 ■裏</p> <p>■接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれどめをしてください。 見返しとえりの裏に接着芯を付ける。 薄くて柔らかい生地の場合、前身頃の裏全体に接着芯を貼るとしっかりします。 この時前のダーツにはほつれ止めはしない。 くわしくは縫う前の下準備を参照</p>
	<p>前と後ののダーツの真ん中で折って縫ってください。 前のダーツの縫い代にほつれ止めをしてください。 後中心を縫って下さい。</p>
	<p>肩と脇を縫ってください。 すその縫い代をアイロンで折り目を付けてください。</p>
	<p>玉ぶちポケットをつけたい場合 玉ぶちポケットの縫い方参照ください。 付けない場合は飛ばしてください</p>
	<p>えりの縫い方 えりの型紙の線の交点と、後中心と、肩縫いが来る位置に印をつける。</p>
	<p>接着芯をついたら衿にしるしを入れる。 表側に来る衿には消えるチャコペンや、表に響かないペンなどで型紙を重ね、上の図であけた穴の所に印をつける。 裏側は、縫いやすいよう交わるように出来上がり線を図のように引いておくと綺麗に縫える。 ※見返しにつくほうが表衿になります (折り返して表に来るので) 裏衿の方に衿起こしの芯を貼る。</p>



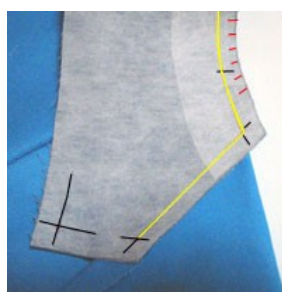
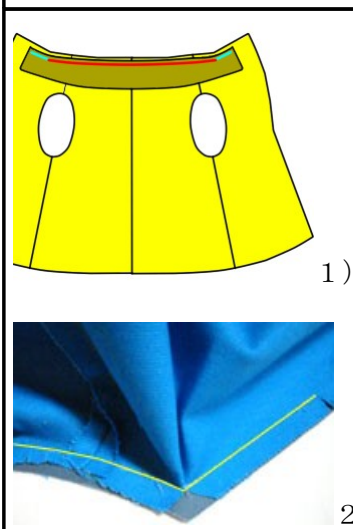
見返しのラペル（胸の反り返った部分）とえりの境の部分の印の切込みと、えり衿の印の位置があうように、真上からまっすぐ針を刺し、固定する。
肩側の角も衿の印と、身頃の出来上がりの丁度交点になる所に針を刺す。



縫い始めは手動で、丁度交点に針が落ちるようにミシン針を卸して縫い始める。
縫い終わりも縫いすぎないように注意して、スピードを落とすか、手動でぴったり交点まで縫います。



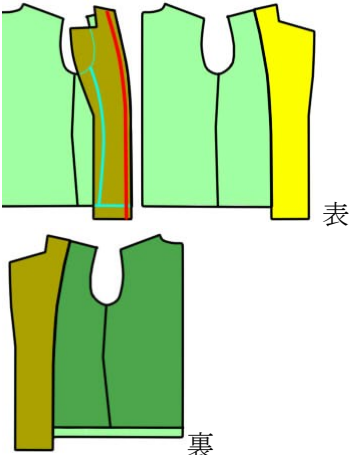
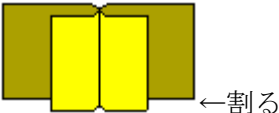
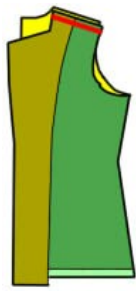
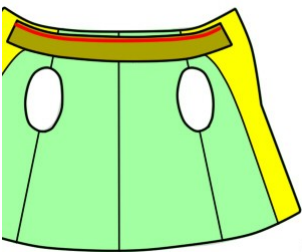
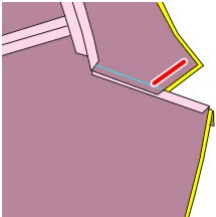
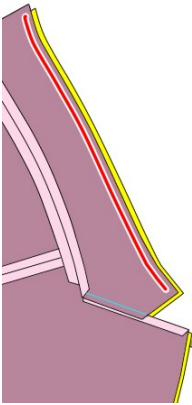
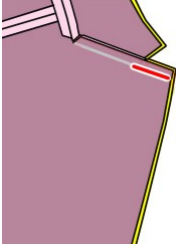
そのままと衿ぐりを縫うとき引きつるので、裏返して、前身頃の角に縫い目を切らないよう気持ち1ミリ残す感じで切込みを入れる。
(衿は切らなくてよい)

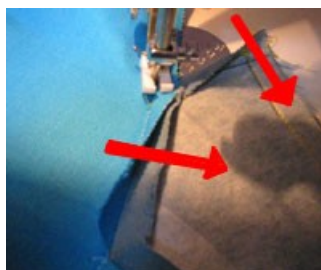


1) 首の横から後ろを縫います（赤い線の部分）
ここも、ミシンで縫うラインより s ~3mm 離れた所をしつけ糸で縫う。
それからミシンで縫うと綺麗に縫いやすい。
2) 出来るだけずれたりしないように角がきちっと合うように縫う。
重なったりずれたりすると表から見たとき引きつったように見える。

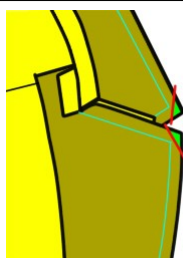
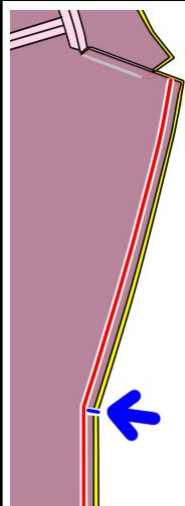
また、余分な生地を縫いこんだりしないように、2番の図のように生地をたたんで、出来るだけまっすぐな状態にして縫うと綺麗に縫える。
カーブの所は引きつったりゴロゴロしやすいので、ぬいしろに浅く切込みをいくつか入れておくと落ち着きます。（身頃側も）

	<p>アイロンで縫い代を割る。</p> 
	<p>裏地を縫う</p> <p>表と同じように前と後のダーツを縫ってください。 裏地の後中心と、脇を縫ってください。</p>  <p>縫い代は後中心に向かって折ってください。 後中心はお好きな方へ。</p>
	<p>市販の型紙で裏地を取るときは、2～5 mmくらい大きめにとっておく とあとが楽です。 洋裁工房の裏地の型紙にはあらかじめキセといって余分が入っています。</p> <p>どうしても裏地はテロテロしているので、綺麗に裁断したつもりでもず れが出て小さくなっていたりします。 大きい分を調節することは簡単ですが、小さいものを大きくするのは難 しいので、裏地だけはちょっと余裕を持っておくと綺麗に仕上がります よ！</p>
	<p>裏地を調節する方法</p> <p>まず普通に1センチのところを縫う。(図い) 5 mm前後縫い代より内側をアイロンで折る。(図ろ) アイロンの温度は中～低温で。 温度が高いと素材によっては縮んだり、引きつったりすることがありま す。 折り目を広げないように気をつけて生地を広げる。(図は) 市販の裏地のついた洋服を見てみると、同様に折り目をつけて裏地に余 裕を持たせているのを見ることが出来ます。 表地より裏地の余裕が少ないと、表が突っ張ったような感じになります ので、裏は多少ゆとりがあったほうが綺麗に仕上がります。 この折り目に余裕を持たせることを 「きせをかける」といいます。 きせの幅はきっちりはありませんよ。 特に裏地は裁断している端からずれやすいので縫い合わせる相手の場所 にあう長さになるように臨機応変にずらしてください</p>
	<p>すその縫い代をアイロンで折る。</p>

	<p>前の見返しのパーツと裏地を縫い合わせる。 (裏地のすそは折ったまま) 裏地は表から見えないように少し短めに作ってあります、 そのため見返しが裏地より長いですがこれが正解です。 アイロンで縫い代を割る。</p> 
	<p>肩を縫う。</p>
	<p>見返しと裏地にえりを縫いつけます。 あとは表と全く同じ要領でえりを付ける。</p>
	<p>えりの縫い代を縫い込まないようによけて、えりの両端を、2枚合わせて縫う。</p>
	<p>衿の上を縫います。 これも印をしっかりあわせて縫ってください。</p>
	<p>見返しの先からえりの境目までを縫い合わせます。 そして、最初に衿を縫った線と、合体するように縫いとめます</p>

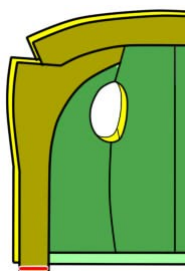


この時もえりの縫い代を縫いこまないように注意して、縫い代をよけておきましょう。

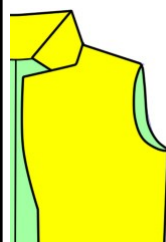


前中心とを縫います。
表替えした時、角が引きつりますので、図の赤い部分に縫い糸を切らない程度切込みを入れます。
前をファスナーあきにする場合は先にファスナーを身頃に仮止めして、見返しと身頃ではさむようにして縫います。
(ファスナーの上は切り込みの位置までです)

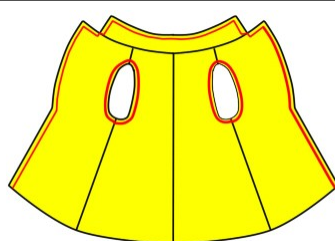
表がえす時に先が厚くならないように、縫い目から2mm離れた角を切り落とす



見返しのすそを縫う。



表返します。



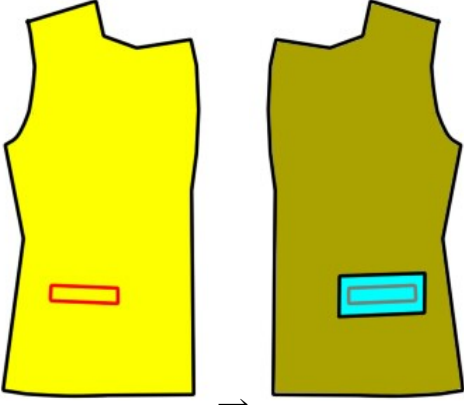
端から5mmの所をミシンで縫うと(ステッチといいます)シルエットがぼやけずしっかりします。

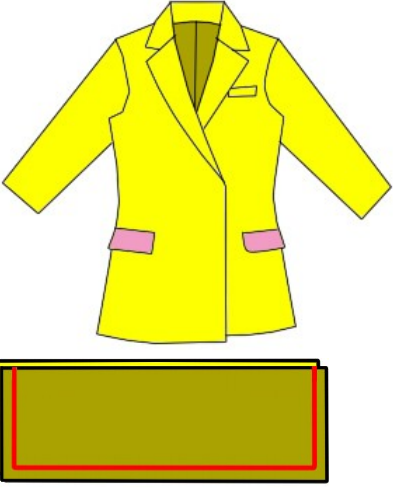

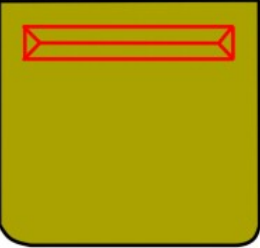
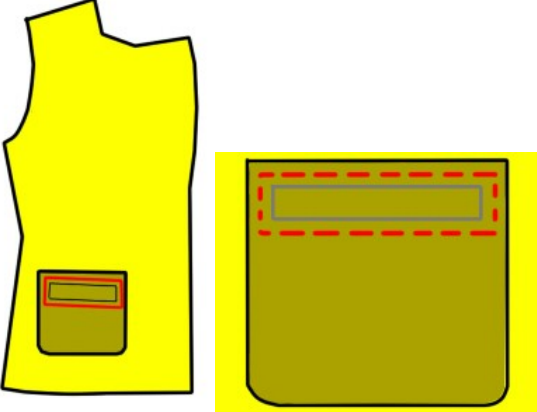
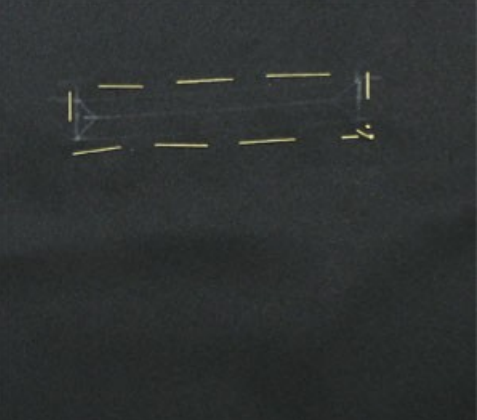
そでぐりがずれないように端から5mmの所を縫う。

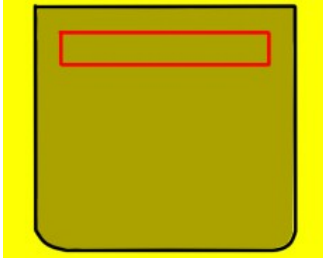
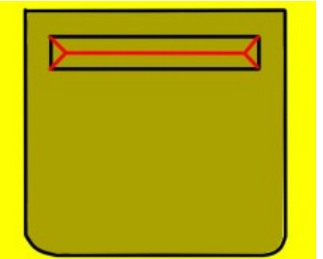

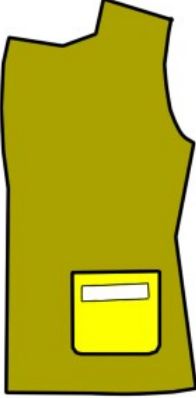

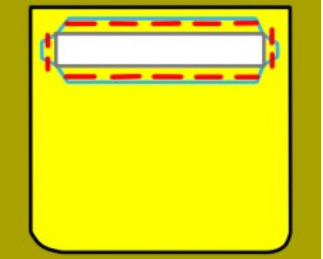

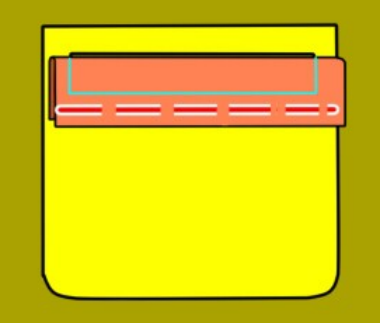

	<p>すそを手縫いでまつり縫いする。</p> <p>まつり縫いの動画はこちら</p>
	<p>ボタンホールを開ける この時点でボタンホールを開けると、そでが無い分縫いやすいですよ。 ボタンの付け方はミシンによって異なりますのでミシンの説明書をご覧ください。 ジグザグ縫いで作るボタンホールの縫い方はこちら</p>
<p>拡大図→</p> 	<p>そで山にギャザーを寄せる</p>
	<p>そして裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せます。 (これを一度覚えておくとスカートやいろいろな事に応用がきくので、是非チャレンジしてみましよう！)</p>
	<p>糸調整を元に戻し 2枚のそでを表側が中になるように重ね（中表という）両脇を縫います。 同じように裏地も縫う アイロンでそで口を出来上がり線で折っておく</p>
	<p>裏地のそで山の縫い代をアイロンで裏側へ折る。</p>
	<p>裏地と表地を内側どおしが表になるように重ねる。 そで口を縫う</p>

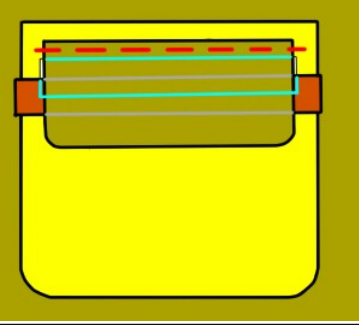
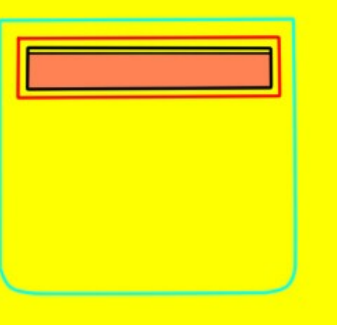
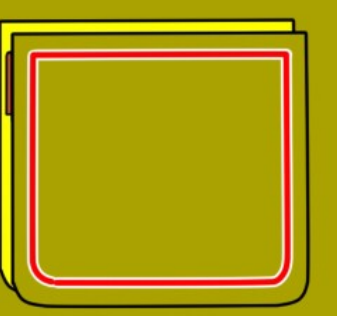
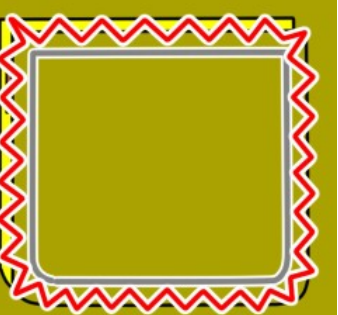
	<p>表がえして、アイロンの折り目通りにそで口を折る。</p>
	 <p>裏地をよけて、表のそでをそでぐりに縫いつける。 <u>そで山</u>の中心と肩、<u>そで底</u>の縫い目と、脇の縫い目をあわせる。 ギャザーの量を調節しながら待ち針で止める。 なれていない人はしっかりしつけ糸で端から5~8mmの所を手縫いをしてまち針を外してからミシンで縫い合わせる。 出来上がり線から少しずれたところを縫うことで、後でミシンで縫った後、しつけ糸を抜きやすくなる。</p>
 <p>裏地そで 身頃 表地 断面</p>	<p>裏地の袖山は、アイロンで縫い代を内側（中に隠れる方）に折ってください。 待ち針でそでぐりにとめてください。 手縫いで表に目立たないように裏地をぬいつけていく 裏に隠れる部分なのでしわはあまり気にしないでいいです。 それより縫い代を余分に取りすぎて、引きつらないように注意してください。</p>
<p>お好みでそでなどにもボタンをつけましょう</p>	<p>ミシンのボタンホール機能の使い方がわからないという場合は、ボタンを飾りにして、スナップボタンで固定するという方法もあります</p>

玉ぶちポケットの縫い方

 <p style="text-align: center;">→</p>	<p>ポケットを付ける位置に印を付ける。 ポケットの穴を開ける場所の裏に接着芯を貼る。 型紙についている縫い代の印を忘れずに写す。</p>
<p>■ 表 ■ 裏</p> <p>■ 接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする。 見返しとえりとカフスと持ち出しの裏に接着芯を付ける くわしくは縫う前の下準備を参照</p>

	<p>雨ふた付きの服にする場合は先に雨ふたを作る 2枚重ねた布が内側同士が表になるように重ね(これを中表と いいます)縫い代を縫う。 ひっくり返すために一部開けておく。</p>
	<p>表に戻して、アイロンで形を整える。 端から5mmの所を縫います。 ボタンを付ける場合は、この時点でボタンホールを開ける。 ボタンホールの開け方はミシンの種類によって異なるので、ミ シンの説明書を見るかボタンホールの開け方を参考にしてく ださい</p>
	<p>ポケット布に型紙から図のように線を写す。</p>
	<p>身頃に描いたポケットの印と、ポケット布の印を合わせる。 この時身頃は表を上、ポケットは裏を上にして重ねる。 ずれないようにしつけ糸を使って手縫いで固定する。 印か3~5mmくらい離れたところを縫う。 近くを縫うとミシンで上を縫ってしまったとき、糸を抜くのが大 変になります。</p>
	<p>裏から見るとこんな感じ</p>

	<p>ミシンで四角の印の上を縫う。</p>
	<p>ハサミで赤の印の上を切る。 この切り口からポケット布を裏へひっくり返す。</p> 
	<p>裏側へポケット布を引っ張り出したなら、形を整えてピンで固定する。</p> 
	<p>穴の端から3~5 mmの所をしつけ糸で縫う。</p>
	<p>たまぶち布(オレンジ色の生地)を半分に折る。</p>
	<p>しつけ糸で玉ぶち布、ポケット布、表生地を一緒に縫う。</p> 

	<p>たまぶち布の端から 5 mmの所を縫う。</p>
	<p>雨ぶたを付ける場合は、雨ぶたを重ね、仕付け糸で端から 5 mmの所を固定する。</p>
	<p>表にひっくり返して、ポケットの穴から 1~2mm の所をミシンで縫う。</p> <p>この時点でしつけ糸は外す。</p> <p>雨ぶたつきの場合は、雨ぶたを表に引っ張り出して、余計ない所を縫い込まないようによけて縫う。</p>
	<p>裏返して、もう一枚ポケット布を重ねる。</p> <p>ポケット布同士の縫い代を縫う。</p>
	<p>ポケット布 2 枚一緒にほつれ止めする</p>

必要な材料

表生地、裏地、接着芯、糸。ボタン

オススメの生地

コスプレ用であればシワになりにくい
ポリエステルツイルが良いと思います。
普段着として作るなら中厚地のウール等で作ると良いと思います。

関連説明書

縫う前の下準備